

教養研究センター「学びの連携」プロジェクト 2013年度 第1回公開セミナー
学生の主体性を育む教育方法の探究・ケースメソッドの多様な応用可能性について
——危機時における責任者の意思決定のケースを題材に——

ケースメソッドを用いた学生の主体性を育む授業を実際に体験し理解を深めます。地域振興、小中高生の主体性を育む授業などにおいてケースメソッドを用いて成果を挙げている飯盛義徳先生による講演に加え、医療コミュニケーション、ヘルスケアなどの教育・実践の場でケースメソッドを積極的に用いている秋山美紀先生・伴英美子先生にワークショップを行っていただきます。

東日本大震災に遭遇した、高齢者介護事業を営む社会福祉法人の経営者の意思決定を扱うケース教材を用いて、介護従事者の価値観・倫理・求められる役割範囲、リスクマネジメント等について学びます。参加者それぞれが応用できる知見が得られるでしょう。

■スケジュール

- 1) ケースメソッドとは
- 2) ケースメソッド体験ワークショップ
「東日本大震災における高齢者介護施設のマネジメント ～ケースメソッド教授法による学び～」
- 3) ケースメソッドをめぐってのコメント
- 4) まとめ、質疑応答

■講師

飯盛義徳（総合政策学部准教授 兼 政策・メディア研究科委員）
秋山美紀（環境情報学部准教授 兼 政策・メディア研究科委員）
伴英美子（慶應義塾大学 SFC 研究所キャリア・リソース・ラボラトリー上席研究員（訪問））

■コメンテーター

新保一成（商学部教授）
横山千晶（法学部教授）

■日時：8月3日（土）16:00～19:30

■場所：来往舎1F シンポジウムスペース

■対象：学びの新たな可能性に興味のある方ならどなたでも

（参加希望者は、事前にお申し込みください。内容の詳細と当日用いる教材を事前にお配りします）

■申し込み先：教養研究センター事務室